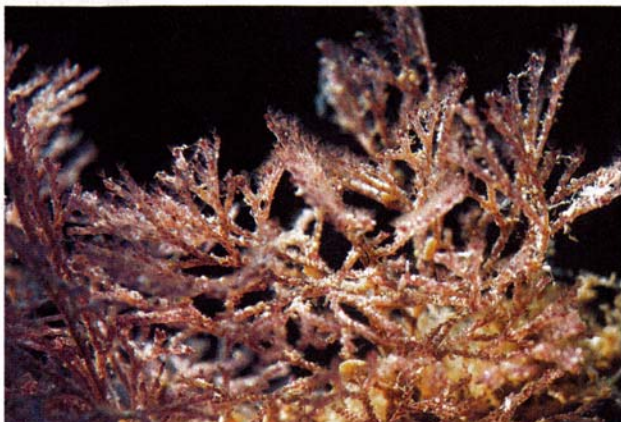


水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

69

伊勢戸 徹



海には実に多様な生物がいる。今回は、恐らく、読者の多くが知らないであろう生物を紹介したい。その名をコケムシと想像していただきたい。ただし体長は1ミ以下と非常に小さい。それが自ら殻を分泌して、自分がすっぽり収まる小部屋を作る。この小部屋には窓があり、

△ 一斉に触手を伸ばしたコケムシ (水槽番号228)

コケのように美しい動物

そこから体を外へ伸ばしたり、危険を察知すると素早く引込んでみたりできる。彼らは、ほとんど出芽して隣に新しい小部屋を増やし、シート状にずらりと並んだり、積み重なって枝状に広がったりする。この群体がコケのように見えるのだ。つまり、コケムシとはコケのように見える動物のことなのである。

コケムシは世界中の海にたくさん生息していて、珍しい生物ではない。波打ち際にはあまり見ないが、ダイビングをする人であれば水中の岩陰などにたくさん見つけることができる。その無数の小さな小部屋から透明の触手が一斉に広げられる様は美しい。しかし、コケムシの個虫は小さい。その美しさはそれを注意深く観察した人にしか気付くことはできない。

白浜水族館ではコケムシが入った小さな水槽がある。しかし、コケムシを展示している水族館はとて少ない。飼育が難しく、あまり長くは飼えないことが一つの理由だろう。また、一見するとコケのようにしか見えないコケムシにはなかなか注目が集まらないのかもしれない。注意すると規則正しく並ぶ個虫は確認できるが、水族館で楽しんでいただくには、やはり小さすぎるだろうか。

そんなコケムシも海の中で綿々と命をつなげて生きてきた美しく価値ある生命だ。人は、知らないものを大事にすることはなかなかできない。彼らが確かに目の前の海の中に生きているということを、少しでも人々に伝えていくことは、われわれ海洋生物学者の使命なのだと思う。

(京都大学助教)